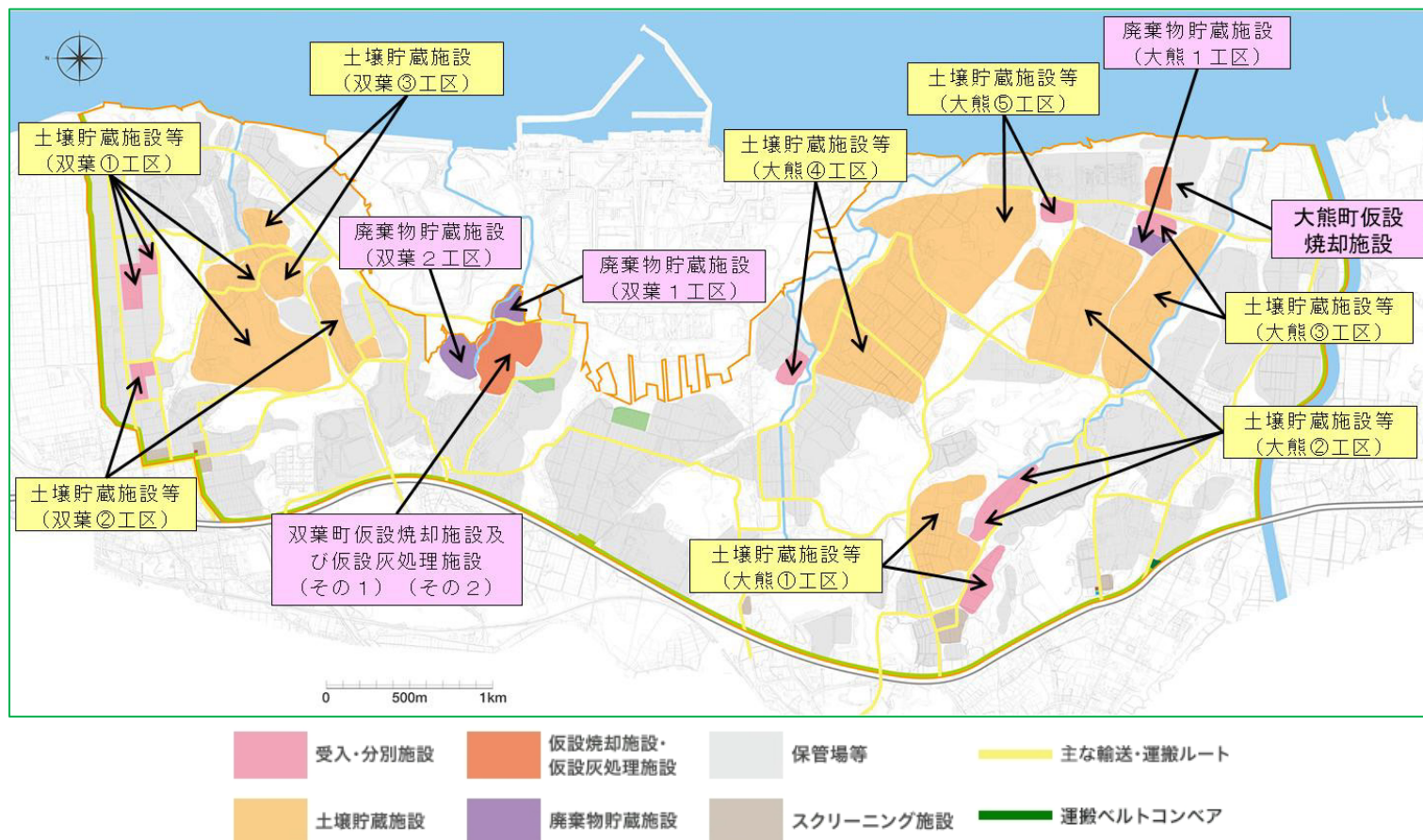


除去土壌等の中間貯蔵施設とは？

- 中間貯蔵施設とは、福島県内の除染により発生した除去土壌や廃棄物、10万Bq/kgを超える焼却灰等について、中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分までの間、安全かつ集中的に管理・保管するための施設。
- 中間貯蔵施設区域は約1,600ha（渋谷区とほぼ同じ面積）。大変重いご決断で大熊町・双葉町に受け入れを容認いただいた。引き続き、安全第一を旨として、中間貯蔵施設事業に取り組む。
- 福島県内の除染で発生した除去土壌等（帰還困難区域を含む。）について、2024年12月末時点で、累積約1,400万m³を中間貯蔵施設へ搬入。



中間貯蔵施設

中間貯蔵施設の整備

受入・分別施設、土壌貯蔵施設

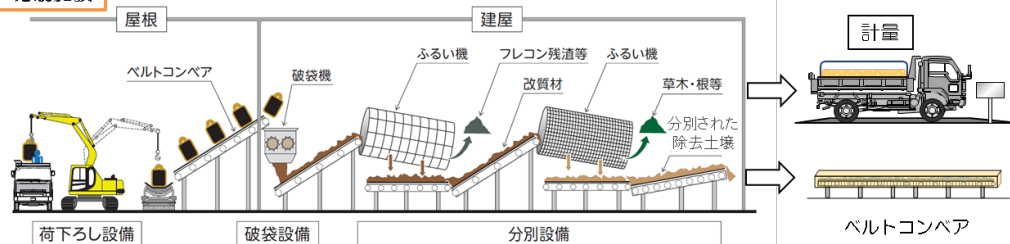
受入・分別施設(大熊①工区)



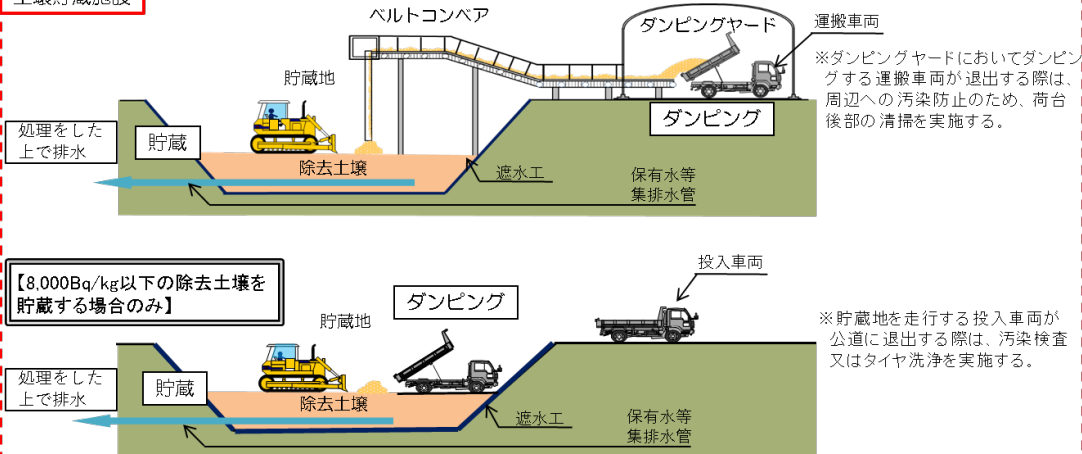
土壌貯蔵施設(双葉①工区)



受入・分別施設



土壌貯蔵施設



仮設焼却施設、仮設灰処理施設 廃棄物貯蔵施設

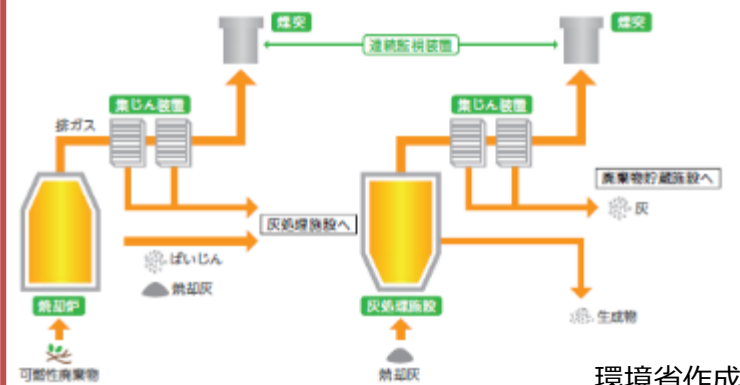
双葉町仮設焼却施設及び仮設灰処理施設(その1業務)



廃棄物貯蔵施設(双葉1工区)



双葉町仮設焼却施設及び仮設灰処理施設

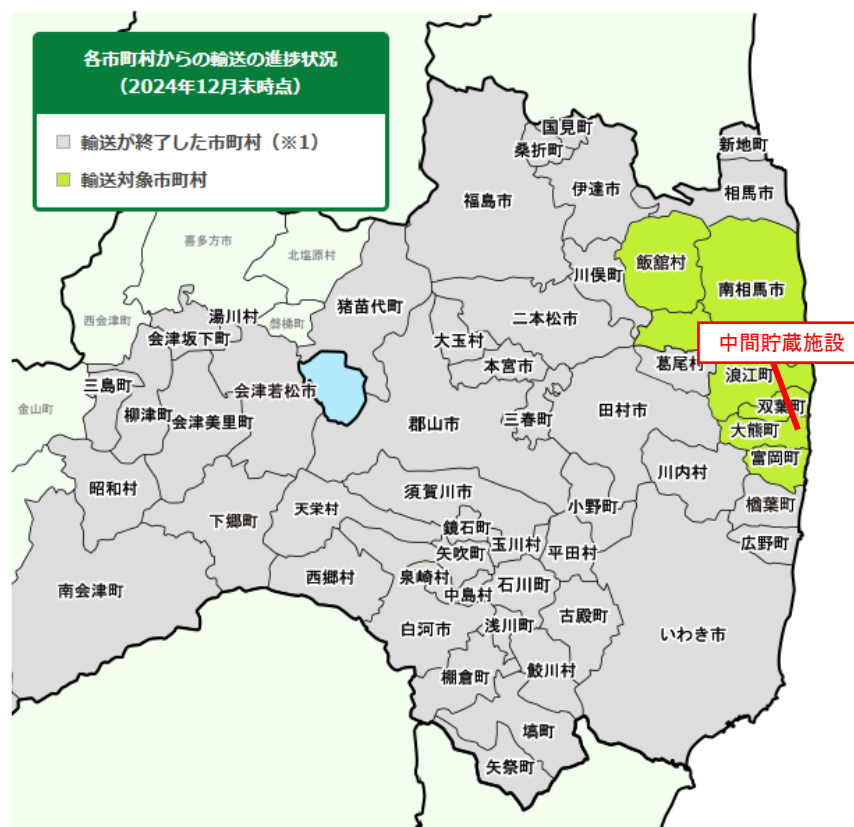


環境省作成

中間貯蔵施設

除去土壌等の輸送

- 除去土壌等の仮置場からの中間貯蔵施設への輸送は10tダンプトラックを基本に実施
- 輸送は2014年度末より開始。2024年度は6市町村からの輸送を実施するとともに、特定帰還居住区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さない輸送も実施する。
- 輸送対象物の全数管理、輸送車両の運行管理、環境モニタリング等を行い、安全かつ確実な輸送を実施中
- これまでに約1,400万m³の除去土壌等を中間貯蔵施設に輸送（2024年12月末時点）



※1：今後輸送が必要となるものが生じた場合には輸送することになっている。

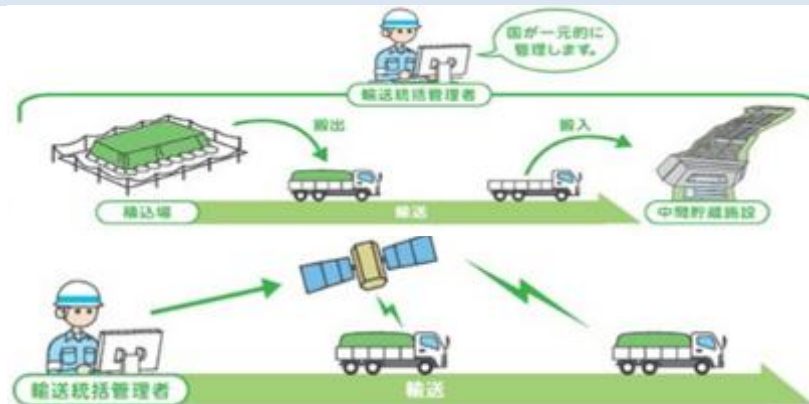
輸送の管理・監視について

輸送対象物の全数管理

- 仮置場等から搬出する輸送対象物は、保管容器ごとに一元的に全数管理をしている

輸送車両の運行管理

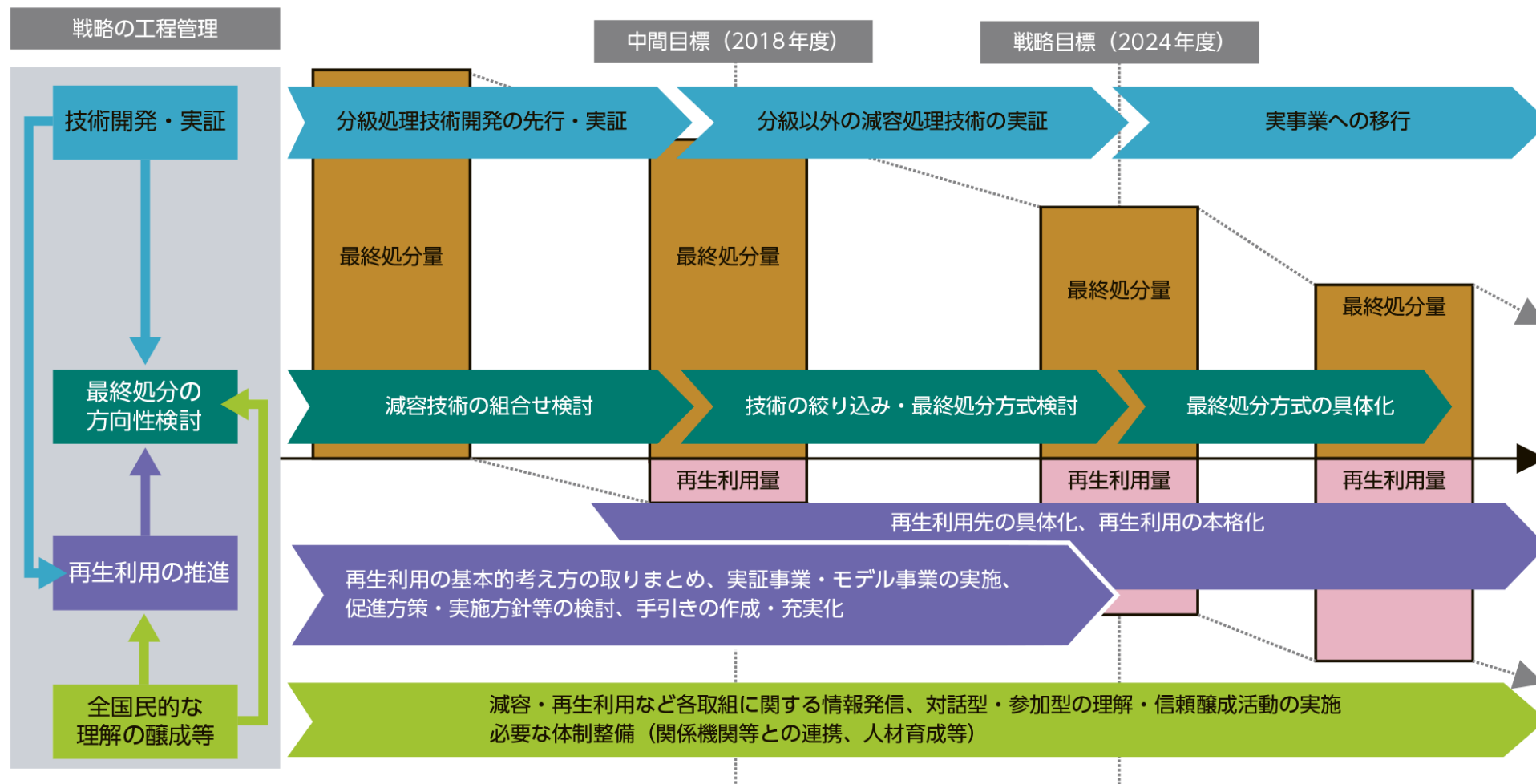
- 交通GPS等を活用し、輸送車両の位置情報等をリアルタイムに把握
- 状況等に応じて、時間調整・ルート変更等の指示を行う



環境省作成

中間貯蔵施設

福島県外最終処分と減容・再生利用技術開発戦略



資料：環境省

（図）「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」の概要

環境省作成

中間貯蔵施設 除去土壌の再生利用の本格化に向けて

2016年6月、放射線に関する安全性の確保を大前提に、減容処理等を行った上で除去土壌を再生資材化し、適切な管理の下での利用を実現するための『基本的考え方』を公表。

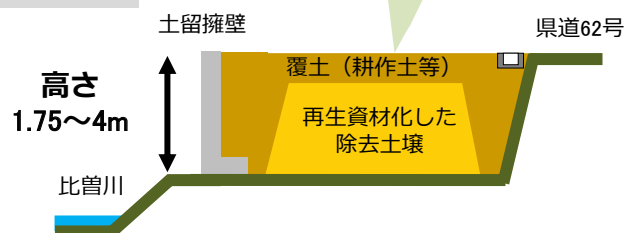
基本的考え方を指針として、放射線に関する安全性の確認や具体的な管理方法の検証を行うために、**実証事業を実施。**

◇飯舘村長泥地区での農地造成実証事業

農地造成した場所（一例）



農地造成イメージ



➤ 造成した農地で米や野菜を栽培

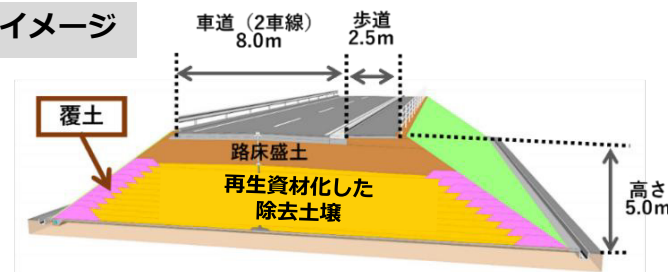


◇中間貯蔵施設内（大熊町）での道路盛土実証事業

道路盛土



構造イメージ



実証事業等の成果を踏まえ、基準やガイドラインを策定し、2025年度以降の再生利用の本格化に向けた取組を進めていく。

環境省作成